

第二課

霊とまことによって

真の礼拝者

「しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

(ヨハネ四・二三、二四)

サマリヤの女に対するイエスのこのみことばは、記録されたものとしては、祈りに関するイエスの最初の教えです。このみことばは、すばらしい祈りの世界を、初めて垣間^{かいま}見せてくれるものです。御父は礼拝者を求めておられます。私たちの礼拝は、御父の愛に満ちた心を満足させ、御父に喜びをもたらすものです。御父は真の礼拝者を求めておられます。しかし、多くの者はその期待にそぐわないのです。真の礼拝は霊とまことによってなされる礼拝です。御子は霊とまことによる礼拝の道を開き、それを教えるために来られました。ですから、祈りの学校における最初

の学課は、靈とまことによる祈りとは何かを理解し、それを自分のものとするにはどうしたらよいかを知ることです。

主はサマリヤの女に、三つの礼拝についてお語りになりました。第一は、サマリヤ人の無知な礼拝です。「あなたがたは知らないで礼拝しています。」第二は、ユダヤ人の、神についての真の知識にもとづいた知的礼拝です。「救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝しています。」そして第三が新しい靈的な礼拝で、主はこれを世に紹介するために来られたのです。「真の礼拝者たちが靈とまことによつて父を礼拝する時が来ます。今がその時です。」この関係より「靈とまことによつて」とは、しばしば考えられるように、熱心に、心から、真剣になどを意味するのではないことは明らかです。サマリヤ人には、モーセ五書と神についてのいくらかの知識があり、彼らの中にも、祈りの中で、まじめに熱心に神を求めた者はいたはずです。ユダヤ人たちには、みことばのうちに完全な神の啓示が与えられており、彼らの中には心から神を呼び求める敬虔な者たちもおりました。しかし、それでもなお完全な意味で、「靈とまことによる」礼拝ではなかったのです。イエスは、「時が来ます。今がその時です」と言われました。イエスにあって、イエスを通してのみ、神礼拝は靈とまことによるものとなるのです。

キリスト者の中にも、三種類の礼拝者を見出すことができます。ある者は無知であるために、熱心な祈りをささげてもその得るところはほとんどありません。またある者はもっと正しい知識

を持ち、思いと心を込めて祈ろうと努力し、しばしば熱心に祈りもするのですが、しかし霊とまことによる礼拝の完全な祝福を得られないのです。私たちが主に入学させていただきと求めなければならぬのは、三番目のクラスです。私たちは、主から霊とまことによる礼拝の仕方を教えていただかなければなりません。この礼拝だけが霊とまことによる礼拝であり、私たちが御父が求めておられるような礼拝者にする礼拝なのです。祈りにおいて、すべてのことは私たちが霊とまことによる礼拝をよく理解し、それを実行することにかかっているのです。

「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」ここで主から示唆されている第一のことは、神と礼拝者の間には調和がなければならぬということです、すなわち霊なる神にふさわしい礼拝をしなければならないということです。これは宇宙を貫く原則です。私たちは体の器官に対応する目的物と器官との間に存在する調和を期待するものです。目は光に、耳は音に対して適合性を持っています。このように真実に神を礼拝し、神を見出し、知り、所有し、喜ぶ者は、神と調和し、神を受け入れる能力を持たなければなりません。神は霊ですから、私たちも霊によって礼拝しなければなりません。神を礼拝する者はまた、神のようであるべきはずです。

ところで、これはどういう意味なのでしょう。サマリヤの女は、私たちの主に、本当の礼拝をする場所はサマリヤとエルサレムのどちらでしょうかと尋ねました。主は、これからは、礼拝

は一定の場所に限られるものではないと答えられました。「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。」神は霊であり、空間や時間に制限されません。無限に完全であり、常にどこにおいても同じお方です。礼拝もこれからは、場所や形式に左右されず、神御自身が霊的なお方であるように、霊的なものでなくてはなりません。

これは、非常に重要な教えです。キリスト教は、礼拝を一定の時間や場所に制約してしまっているために、どんなに大きな損害を受けていることでしょうか。教会や密室で真剣に祈りたいと思っている者も、週日、あるいはその日の大部分を、祈った時とは全く正反対の気持で過してしまいます。このような人の礼拝は、ただ一定の場所や時間に固定されてしまっていて、その全存在が礼拝となっていないからです。神は霊であり、永遠の不変のお方です。神が神たることは、いつも同じであり、真実です。したがって、私たちの礼拝も同様に、霊とまことをもって行わなければなりません。神を礼拝することが私たちの生活の精神であり、また私たちの生活は、神が霊であるように霊的礼拝でなければなりません。

「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」このことによって二番目に教えられることは、この霊による礼拝は神御自身より来るべきものであるということです。神は霊であって、ただ神のみが御霊を有し、これを私たちに与えてくださるの

です。だからこそ、神は私たちに聖霊をお与えになることによって、私たちをこのような靈的礼拝にふさわしい者にしてくださるために、御子をお遣わしになったのです。イエスが「時が来ます」と二度も言われ、「今がその時です」と付け加えられたのは、御自分のみわざについて語られたものです。イエスは、聖霊によってバプテスマを授けるためにおいでになりました。そして、聖霊は、イエスが栄光を受けられるまでは注がれることがなかったのです（ヨハネ一・三三、七・三七—三九、一六・七）。イエスは、罪を封じ、御血を携えて至聖所に入られた時に、私たちのために聖霊を受けられたのです（使徒二・三三）。それは主が、御父の霊としての聖霊を私たちにお遣わしになるためでした。キリストが私たちを贖い、キリストにあって私たちが子としての地位を与えられた時、御父は私たちの心に御子の霊をお遣わしになり、「アバ、父」と呼ばせてくださったのです。ですから、霊による礼拝とは、御子の霊、キリストの霊によって御父を礼拝することなのです。

イエスがここで、父という名を用いられた理由がここにあります。旧約聖書の聖徒たちの中で、個人的に子という名を用いたり、神を父と呼んだ者は一人もいませんでした。御子の霊を与えられた者のみが、御父を礼拝することができなのです。また、霊によって礼拝することは、御子によって御父を示された者たち、すなわち御子の霊を与えられた者たちだけができることです。キリストだけが、霊による礼拝の道を開き、また教えることがおできになるのです。

次に、まことによつて礼拝するとは、ただ真剣にという意味だけではありません。また、神のみことばの真理に従つて礼拝するということだけでもありません。まことによつてという表現には、深い神聖な意味があります。イエスは、「父のひとり子で、恵みとまことに満ちておられる」方です。「律法はモーセによつて与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによつて実現した」からです。イエスはこう言われました。「わたしは道であり、真理であり、いのちなのです。」旧約聖書において記されたことは、すべてが影であり、約束でした。イエスは、望まれていたもの**の实体**、すなわち**真実**をもたらし、また与えてくださったのです。イエスにあつて永遠のいのちの祝福と力が、実際に私たちのものとなり、経験となりました。イエスは恵みとまことに満ちておられ、聖霊は真理の御霊です。聖霊を通して、イエスにある恵みが、実際に私たちのものとなり、神のいのちから出る確実な交流が成立します。ですから、霊による礼拝は、まことによる礼拝、すなわち神との実際的な生きた交わり、また霊なる御父と霊によつて祈る子供との本当の交流と調和なのです。

サマリヤの女にイエスが言われたことは、初めは彼女に理解できませんでした。その完全な意味が明らかにされるには、ペンテコステが必要でした。祈りの学校に入学したこの私たちに、そのような教えを理解する用意がほとんどできていません。けれども、後になってよく理解できるようになります。ですから、それまでは主が教えてくださるままに、教えを受けることにしま

しょう。私たちは肉的な者であり、神が望まれる礼拝をとうてい行えるわけではありません。が、イエスは御霊を私たちに与えるためにおいでになり、そして、すでにそれを私たちに与えてくださったのです。ですから、私たちの祈りの態度を、キリストのみことばが教えているとおりにしましょう。また、私たちは、神が喜びになる礼拝をささげる能力がないことを率直に告白し、神の教えを待つ子供のような素直さと、御霊の御声にゆだねる単純な信仰をもって、教えを受けるために待ち望みましょう。それにもまして、私たちは恵み深い真理——それについては、主はなお多くを語ろうとしておられます——^①神が父であることを知る知識、^②私たちの心に示された神が無限に父でありたもうという啓示、^③私たちが神の子とするために御子と聖霊をお与えくださった神の無限の愛に対する信仰などは、実に霊とまことによって祈る祈りの秘訣であることをつかり握っていきましょう。これこそ、キリストが私たちのために開いてくださった新しい生きた道です。御子キリストと御子の霊とを、私たちのうちに住ませ、御父の啓示を与えられることは、すなわち私たちを眞の霊的礼拝者とさせる道なのです。

恵み深い主よ。あなたに一杯の水さえ差し上げることが拒んだ女に、神を礼拝する道をお教えたくなったあなたの愛をほめたたえます。霊とまことによって祈りたいという気持であなたのみも

とに來る弟子たちに、あなたは今も變らずにお教えくださることを確信して、私は喜びます。あ
あ、私の聖なる主よ。この恵みに満ちた秘訣を私にも教えてください。

靈とまことによる礼拝は、人間より出たものではなく、ただあなたによってのみ実現できるこ
とを教えてください。また、靈とまことによる礼拝は、ただ一定の時期や季節において行われる
ものではなく、あなたにあるいのちがあふれ流れることであることを教えてください。私に自分
の無知を教えてください。そして、何一つ神にささげるものを持たない者であることを心に刻み
つけて、あなたに近づくことを教えてください。同時に主よ。あなたの摂理によって定められた
時に、子供のように口ごもる私に、御靈の息吹をかけてくださったことを深く心に覚えさせてく
ださい。私があなたの子供であり、子供のようににはばかることなくあなたに近づく自由を与えら
れ、また、御子の靈とまことによって礼拝できることのゆえにあなたをほめたえます。ほむべ
き御父の御子よ。御父の啓示が、祈りにどのような確信を与えるものであるかを私に教えてください。
さい。願わくは、神の無限の父としての心が、祈りと礼拝との生活における喜びと力になります
ように。アーメン。